

2018年07月31日

逗子市

戦争と平和を考える8月 身近にあった戦争を知り、平和について考える

8月3日から始まる「ずし平和デー」は、親子映画会や朗読劇、講演会など、子どもから大人まで一緒に参加できる企画が集まりました。また、広報ずし8月号では戦争の特集を組むとともに、逗子フォトに「太平洋戦争と昭和20年代の市内の様子」の写真を掲載しました。

ぜひこの機会に、身近にあった戦争を知り、平和について考えてみましょう。

●2018ずし平和デーの開催

ずし平和デー実行委員会と市の共催により、今年で8回目となるずし平和デーを開催します。見て、聴いて、参加して、平和や命の大切さについて考えられる8つの企画が集まりました。

(注目の2企画)

- ・We are the world ～ともに生きよう～ (8月18日(土) 13:00～18:30@さざなみホール)

原田真二さんや、逗子出身のアーティストNiM2をゲストに迎え、参加型のダンスやコンサートを行います。

- ・語りと映画 歴史は今につながっている (8月27日(月) 10:30～12:00@さざなみホール)

特攻隊の少年兵だった伯父の生涯を「ユキは十七歳、特攻で死んだ」という本で知り、三浦市を中心に全国で語り部をしている高德えりこさんによる講演と、ドキュメンタリー映画「少年飛行兵の笑顔」の上映。

●広報ずし8月号で「わたしたちは忘れない 逗子の戦争のあと」を特集

- 披露山の高角砲台 戦時中、現在の披露山公園に高角砲、指揮所、高射装置があった話
- 小坪の洞窟砲台 終戦直後に洞窟内の爆発で、少年16人が亡くなった話
- 柏原村(久木) 昭和16年久木柏原地区に住んでいたが、強制移転させられた話
- 沼間第四寄宿舎 宮城県や福島県などから動員された女学生が収容されていた話

●逗子フォトへ「太平洋戦争とそのころの市内の様子」

逗子の今昔を写真で紹介する「逗子フォト」。昨年12月のサイト開始から、既に5万件を超えるアクセスがあります。「風景」や「市の施設・建物」など30種類ほどあるジャンルや撮影した年代から写真を検索することができ、今回の広報ずしの特集にあわせて、8月から「太平洋戦争と昭和20年代の市内の様子」のジャンルを新たに作り、主に市民の方から提供いただいた30枚を超える写真を追加掲載しました。

写真は、戦時中応召された際の様子や、接収された当時のホテルのほか、昭和20年代の逗子の子どもの様子もあわせて見ることができます。

ホームページアドレス <http://www.city.zushi.kanagawa.jp/zushiphoto>

【付属資料】

資料1：2018ずし平和デーちらし

資料2：逗子フォト写真

広報ずし、逗子フォトに関するお問い合わせ先：

経営企画部企画課広聴広報係 米山・仁科(内線316)

2018ずし平和デーに関するお問い合わせ先：

市民協働部市民協働課 石井・中川(内線266)

電話：046-873-1111